

# 第六次総合計画の策定に係る第1回市議会との意見交換の実施結果

## 1 実施概要

実施日時	令和4年11月18日(金) 午後1時30分～3時30分
実施場所	市役所南庁舎3階講堂
実施方法	委託事業者によるファシリテーションのもと、2グループに分かれて検討
実施内容	(1) 基礎調査結果の確認 (2) 将来のまちづくりに必要な取組の検討

## 2 実施結果

### (1) グループ1

- ア 人口を増加・維持できてきたのは、これまでの市の取組の成果である。現在の取組を踏まえて今後の施策を検討する必要があるのではないかと。
- イ 調査結果では比較的若者の満足度が低かったため、若者にとって魅力あるまちづくりにつながる取組が重要となってくるのではないかと。一定の世代以降になると、消費行動の範囲は狭まってくる。地域の様々な場所でお金を使ってもらえるためには、若者層を増やすことが必要である。
- ウ 出産・子育てに伴う女性のM字カーブは、現在は比較的小さくなっているが、以前は大きかった。若者に対する魅力づくりも含め、子育て支援を強化していく必要がある。
- エ 企業誘致を積極的に行い、各取組に必要な財源を確保できる仕組み作りが重要ではないかと。
- オ 市内外を含め、多くの人に来てもらうための情報発信が重要ではないかと。尾張旭市は魅力的な場所が多くあるが、市外の人にとっては認知されていない場合が多い。そうしたものを知ってもらうための取組を検討すべき。
- カ まちに賑わいを作ることも重要だが、その一方で静かで落ち着く環境を評価している市民も多い。過度な賑わい作りを進めることで、治安の悪化や渋滞など、もともと住んでいた人の暮らしの質が低くなってしまえば本末転倒である。
- キ 静かで落ち着いているという意見は、必ずしも肯定的な意見ではなく、「何もない」の裏返しである。市民の本音としては、魅力的なお店や多様な働き先などがもっと増えてほしいと思っているのではないかと。
- ク 買い物の利便性の評価がされているが、車があることが前提であり、市内の公共交通は脆弱である。特に南北の交通がないことが課題である。
- ケ 利便性が高く、魅力的なまちを作るための1つの手段として、スマートシティやDXも考えられるだろう。自宅にしながら多様なサービスを受けることができたり、データ活用で暮らしの質を高めていくといった視点も重要ではないかと。
- コ 総合計画は10年先を見越した計画であるが、さらに長期的な視点に立ち、人口構造の変化等を踏まえた施策検討が必要ではないかと。その際、長期的な視点で、大胆かつ革新的なビジョンを掲げ、それがヒト、モノを引き寄せるといった形が望まれる。
- サ 魅力づくりの1つとして、障がい者やマイノリティなどを含めたあらゆる人にとって住みやすいまちづくりが重要ではないかと。ユニバーサルデザインのまちづくりを進めることで、それが魅力となり多様な人材が集まる地域をめざしていけるとよい。

シ 税金に占める法人税の割合が低いことは、メリットと考えることもできる。実際、リーマンショックの際は、周辺都市が税金に大きな影響を受ける中で、尾張旭市は比較的小さな影響で済んだ。

ス 尾張旭市の構造として、駅と住宅地が離れている点が特徴である。駅と住宅地の間に集客が期待できる施設を整備していくことで、効果的な賑わいづくりにつながるのではないかと。

## (2) グループ2

ア 2035年に2010年程度の人口規模を維持できる見通しとあるが、見通していいのか。瀬戸市や長久手市、守山区などの近隣からどのように人を呼び込むことができるかを検討すべき。

イ 市民は住みやすいと思っているようだが、何に力を入れると、転入者が増えてくるか。暮らしていくうえで重要な要素の有無に示された、理想と現実の差の出ているところに力を入れるべきだ。

ウ イオンやコストコのような大きな商業施設は他市に任せてもいいと思うが、市内に飲食店街のようなものがあった方がいい。飲食店街まで電気自動車の自動運転で行くといったように、将来の技術革新を見越したまちづくりを検討すべき。

エ 名古屋産業大学の学生に、魅力ある尾張旭市の話の聞いたりしているが、これからのまちづくりでは「エッジの効いた楽しさ」がキーワードになる。

オ 平均点のまちを創っても仕方がない。まちの持っている歴史や景観など魅力に特化して国内で他市に負けないオンリーワンの魅力をつくるべき。

カ 尾張旭市は持ち家を求めて転居してくる人が多い。持ち家を購入しようとするときに、どうすれば尾張旭市を選んでもらえるかを市の政策として考えることが大事だ。

キ シビックプライドが大事だと思っている。多くの市民が市に対する愛着があるものの、誇りがないうえで、70歳以上の人は誇りもあり、そこにまちづくりのヒントがあると思う。市の魅力を市民が発見して、みんなでつくっていくことが大切だ。

ク 市がめざすべきは住民コミュニティや福祉を持続可能にしていくことだ。このとき、現在の市やエリアにとらわれず、財政面での効率性を考えるべき。現在の8.4万人の都市規模は効率が悪く、20万人ぐらいが望ましい。近隣市とサービスが分断されているため、協働を考えることが必要だ。

ケ 尾張旭市はバランスが取れたまちで、子育て世代にやさしい、森林公園が近い、災害に強いなど、住みやすいまちの要素が揃っている。大型ショッピングセンターも近くにある。しかし、公共交通が発達していないと、高齢者は移動できない。また、市のPRが必要だ。

コ 第五次総合計画の中間報告のアンケートで、3段階評価で聞いている設問があるが、多くの方は真ん中の選択肢を選ぶ。これを4段階評価にして市民の意思が確認できる内容にする方がよいのではないかと。

## (3) 全体討議

ア 「紅茶のまち」はオンリーワンの取組であり、上手く活用してにぎわいを作り出すことも必要だ。また、女性の目線でまちづくりを考えることも重要だ。

イ 企業を誘致すると法人税が入るが、景気動向により左右されやすい。まちの安定性を求めるのであれば、今の税金構造のままでもよいのではないかと。

ウ 尾張旭市にとって落ち着いたまちを守っていくことも捨てがたい。災害の心配が少ないことも、とても大きなメリットになる。